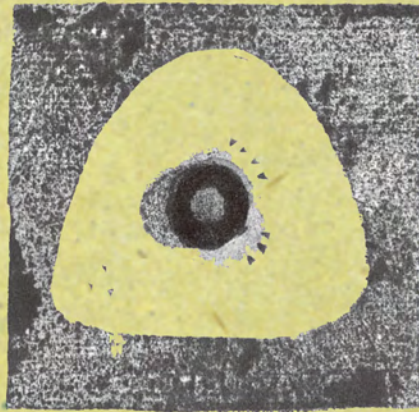


ふたのはこ





おにぎりもっとあたためますか



加賀田優子

ごめんねと産まれたことはあやまって拾った金で食うドーナッツ

わるくちがばかすかと出る午前四時きれいな瓶をみんな抱えて

幸福なエンド ハッピーな結末 無花果は目を瞑って食べる

皿割れる前に磨けば皿割れたあとはなおさら輝く破片

甘やかすためのココアをぶちまけていけばやさしく黒い足跡

これで死んだひといるんだってと屋上から撒くクリームソーダ

目があればいつも片方投げられてお前のパピコにもう巻きこむな

脱ぐまえに飲み干した水指で追い「あたしたちより上手にまざる」

「フィルターがぐしょぐしょだから珈琲」の意味も分からず抱かっていたい

簡単なぬくもりなので大丈夫 おにぎりもつとあたためますか

ミニ
エッセイ

幼い頃、祖母に連れられて、手相をみてもらいに行ったことがある。顔の長いおばさま占い師は、私の手をみて言った。

「水商売に向いています。一生食いつばぐれないでしょう。」

帰り路、祖母に尋ねた。「水商売ってなに？」祖母は即答した。「お皿を洗ったりする人のことよ。」それからふたりで蜜豆を食べた。祖母は私に桃の欠片をくれた。目があうと、祖母がにこりと笑ったので、私もにこにこにこに食べたのだった。

加賀田優子

24歳。なんたる星所属。

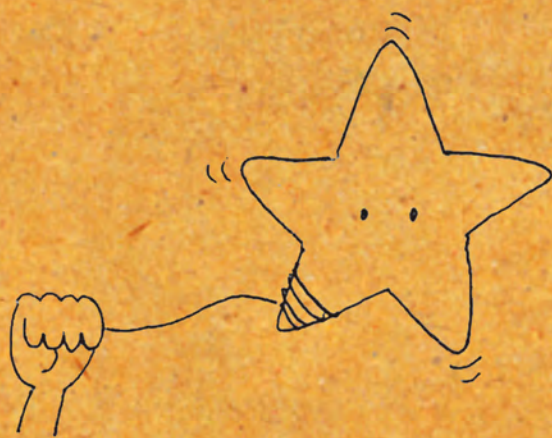
好きな食べものはナタデココ。

twitter:@Occak

note:<https://note.mu/Occak>



希望的観測よりも
さようなら



ろくもじ

いつかまた会える人にもおしなべて正しいさようならをあげたい

指で数がぞえていたらもう曲げていいのが親指だけだった今日

すぐ揺らぐ決意を抱き枕に変える てをつなぐことてをつなぐこと

ゆるされる遅刻もあるよあざとさを感じさせないよう巻くマフラー

くぼしあう愚痴の仲間にどうしても入れてあげられない過去の恋

隠されるあくびのそばで深呼吸するよひそかに On your mark

運命線近くの汗で珍しいアイスの味もわからなくなる

差し出したカメラの厚み 丁度いい距離を探して寄せ合うピース

パントマイムすべき明日に背を向けていけばいいのに言えばいいのに

ハンドルを握り直している隙に助手席のくぼみは無くなった

ミニ
エッセイ

歓楽街を抜けたところにある団地のあたりでよく星を見ている。星座はよく知らないし歩道に突っ立ってるのも変だけど、これはこれで良い。

この間、そうやっていつものように空を見ていたら、ある星がゆっくりと流れていたのでもこぞとばかりにありとあらゆる欲求を願い事にしてみた。あとでヤフー知恵袋を見たらいやいやそれは人工衛星ですよ、と書いてあったけど、私には流れ星に見えたり、それはそれで良いのだ。

ろくもじ

福岡出身、在住、これからもきつと在住。
短歌の同人「花とチュロス」の口担当。
福岡歌会（仮）に参加中。薄識。
twitter: @Gmoji_



よろこぶ傷



交番におまわりさんじゃない人がいたけど道を教えてくれた

ユニコーンの角があったらいいのにな通勤ラッシュのとき便利そう

隙間なくランチヨンマットを敷き詰めて果てしない昼ごはんは続く

鳥籠の中に烏龍茶がおって声をかけたらじわじわ滲む

ミュージック楽しくなって捕まえた鬼を逃がせばおまつりさわぎ

戦いの火蓋を切って落としたり拾ってくれる友達がいる

断面のかっこいいのを見せるには痛い思いをするしかないか

重曹を入れて焼いたら膨らんですこし心にゆとりができた

しあわせはシュガーポットの中にあるすくい出したらもう止まらない

三角を描いたところに三角を足されて星になるわたしたち

ミニエッセイ

久しぶりにヒールのある靴を買った。黒のショートブーツ。ヒールで言うても5センチもないのに、仕事行って帰ってくるだけで、翌朝にはふくらはぎが筋肉痛になるから立派なもんや。

この靴を履いて歩くと、背筋がしゃんとして、そういえばうちはモデルやったんやって思い出した。前世モデルや、知らんけど。伏し目がちに信号を見る。赤になった。余裕をたっぷり持ってポーキング。みんな、この見事なポーキング見るために立ち止まらんかい。信号赤やぞ。

じやー」

大阪生まれ大阪育ち。鯖が大好きです。
かわいい短歌冊子「めためたドロップス」
作っています。

twitter: @sabajaco
鯖ライター: <http://sabajaco.com/>



ゼリー色の夏



おしみなく愛をそそいで枯れさせてあたりいちめんプールの匂い

この先でアラームが鳴っていなくても立ち止まらないでください、と声

あかあかと尾びれ背びれが生えていきあとからあとから水にゆれてる

扇風機かかえて帰省するひとと家族をつれて帰省するひと

(はなび)また(はなび)花火のおとがしてあなたのやさしさとすれ違う

いっせいに暗がりになり駆け抜ける野外音楽堂のうちがわ

台風のはなれていった夕暮れにスイカ切ります近づかないで

さきざきでぶつかりあって散る星がなにもいわずに瞬いていた

朝顔の種をひそかにあつめてくしらないひとの家の軒先

ぼんやりと気泡が昇り(息をして)うすいしお味のゼリーを食べる

ミニ
エッセイ

8月、六甲山牧場へ行った。お昼前、雨だ、と思う間もなく大粒の雨が降り始めた。たくさん羊たちが雪崩のようにいちもくさんに丘を駆け下りていった。小屋へ帰っていくらしい。ひとまずお昼を食べて時間をつぶしてみたものの、雨はやまず、どんどんと強まっていく。動物も人もいなくなった牧場は静かだった。山を下り大阪に帰っても同じようなどしゃぶり、駅から自転車ですう存分濡れながら帰った。もう家に帰るだけだ、と思ったり、濡れるのもすこし楽しかった。

一川

1986年生まれ。滋賀出身、大阪在住。

詩と短歌と写真が好きです。

即興ゴルコンダ(仮)

<http://golconda.bbs.fc2.com/> 開催中

です。

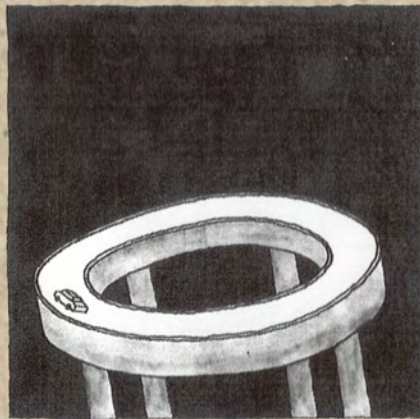
現代詩フォーラム

<http://po-m.com/forum/myframe.php?>

hid=6826



定点観測



AKIOKANATANI

とびやま

迷わないあなたは無限高速に乗った分岐は捨ててしまった

新しい友達になる鳴り止まぬ拍手みたいなのなか

高い高い椅子に座っていたせいで声をなくして言葉は増えた

今日もまたできたばかりの輪郭を満員電車のドアに挟んで

飛行機が低く過ぎ行く両膝に力を溜めて情熱と呼ぶ

丁寧息を吹き込まれた心　しあわせそうに破裂したもよう

そんなこと言いたかったわけじゃないのに、なんて言葉が私から出た

思い出すばかりの春だ前髪を風にあずけて待つふりの駅

空気を吹き込まないとしぼむ大切な大切なものが無かった

月面を歩くみたいにな器用なさよならでしたさよならでした

ミニ
エッセイ

大阪・中崎町で、名前がない立ち飲み屋さんがあります。冷蔵庫から自分でお酒をとるシステム。冷えた枝豆などもちゃんとあります。

店のおじさんが、ポテトチップスはどう？って。ひとつもらうと、はさみで袋を丁寧に切ってくれます。

こう、上だけをこう切る。なんて斬新な！

嬉しくて、その状況がおもしろくて、ずっと笑っていました。

冷えたビールと、食べ慣れないポテトチップス。

その日は月食の夜で、長く月を見ていました。

とびやま

醤油か塩なら醤油を選ぶ。

大阪中崎町サクラビルで本屋「葉ね文庫」

やっています。

twitter: @robiaman

<http://hanebunko.com>



加賀田優子

ろくもじ

じゃこ

ことこ

とびやま

ふたのはこ電子版

発行：二〇一五年五月

制作：じゃこ